

第 1 回（仮称）堺市立小・中学校の規模及び配置の適正化に関する 基本方針策定検討懇話会における構成員からの主な意見

第 1 章 基本方針策定の背景

第 2 章 基本方針の策定の目的と位置づけ

- (1) 過去に行われた学校再編について課題と成果に関するデータがあれば参考に教えてほしい。
- (2) 学級数の減少をパーセントで表現するのは、人数と違って分かりづらい。具体的な書き方はできないかと思う。

第 3 章 学校の規模について

第 4 章 学校の配置について

- (3) 学校規模と学力の相関を研究している研究者がいる。小学校の規模としては 700 人くらいまで、24 学級が臨界点というが、学校生活への満足度や学校への愛着に関しては変わらなかった。設備面での制約がなければ、大規模でも問題ないとの研究成果がある。科学的な根拠に加え、地域、施設、こどもの実態、教員の配置などを考えないと納得を得られない。
- (4) 適正規模の範囲について、学級数や児童生徒数というものからだけではなく、地域事情や児童生徒の実態等も考慮し、弾力的に検討する必要がある。
- (5) 以前の再編で、学力やこども・保護者の満足度がどう変化したかを押さえる必要がある。再編により学力等が上がっていれば、学校規模を大きくしてもよいかもしれない。
- (6) 適正規模は自治体によって違いはあるものの、どの自治体も単学級は避けたいというところはある。上限の学級数の考え方は、教育環境、教育事情等、様々な要因による。
- (7) 単学級を避けたい理由も分かるが、単学級でも縦割り活動で学べることがあり、2～3 クラスが必要と設定するのは疑問がある。
- (8) 学校には集団での学びがあり、単学級では人間関係や実際の学びにおいての多様性等、重要な面が削られる。一方で、こどもたちが多くだけで学習環境が整っていなければ意味がない。
- (9) 地域コミュニティの中での関係は、特に小学生には大切な関係で、そこで多様な学びが保障される。
- (10) 学校を統合して、コミュニティがどうなるかは心配。
- (11) 学校配置は、通学区域が広がると安全性やこども・保護者の負担に配慮が必要となる。個別ケースに配慮しつつ、こどもたちに負担をかけずに、また、学力が下がるようなデメリットが生じないような配置にしなければならない。
- (12) 学校は地域の学校でもあり、地域がきちんと機能しなければ学校も成り立たない。
- (13) 通学距離の目安を、文科省の基準で小学校 4km・中学校 6km と一律に設定することは、地理的な面を考えると好ましくない。

第 5 章 学校の規模及び配置の適正化の方策

- (14) 小規模校には、それぞれの児童に目が届きやすいという家庭的な雰囲気や学べるメリットがある。一方で、友人関係や集団活動等の学校行事の面で、一定の児童数があることで得られる教育効果も大切である。
- (15) 地域の皆様の学校への思いや愛着は十分理解しているが、これからの 10 年、20 年先を見据えて、こどもたちにとって何が望ましい教育環境かという視点を持って考えることが大切と思う。
- (16) こどもたちにとってより良い教育環境をどう守っていくのかという視点を大切にしながら考えたい。
- (17) 人口推計等、今後のことを予測しながら考えていくべき。

- (18) 少子化により複数学級を安定的に維持することは容易ではないため、こどもたちが切磋琢磨しながら学べる環境を確保することが重要。
- (19) 単に人数だけでなく、こどもの育ちを考えた上で、多様な学校形態を考えることが大切である。地域活性化政策等、将来的な政策動向を含め、複線的に検討しなければ、思わぬ溝にはまってしまうことがある。
- (20) 「再編を前提として進めるのではなく、複数案を比較し、最適な手法を選択する」ということは大切なことで、小中一貫校や特認校、学びの多様な学校を含め、今までの成功モデルやシミュレーション上のモデルを示し、複数を比較して最適な手法を選択することは良いことと思う。
- (21) 人数が違うのに小規模校も大規模校も同じことを進めようとするのは難しいことで、様々な形態の学校のいいところを取り入れて、学校も多様な場所であってほしい。
- (22) できれば各区に1校ずつ不登校に対応する学校があればいいと思う。
- (23) 小中一貫校には「分離型」「一体型」があり、義務教育学校もあるので、取組手法として書いておくべき。
- (24) 私立の小・中学校に通学する児童生徒が多いことを考えると、義務教育学校を作れば、人口流出が少なくなるかもしれない。

第6章 学校の規模及び配置の適正化に係る留意事項

第7章 基本方針の推進及び検証

- (25) 学校はこどもたちの学ぶ場であるが、地域と学校をつなぐ大切な拠点であり、登下校の見守り活動、あいさつ運動、地域行事へのこどもの参加等、多くの方が学校と連携してこどもたちを支えているので、学校が再編されてもそのような活動が継続できるように配慮することが重要であると思う。
- (26) 地域のつながりは長年かけて築いてきたもので、一旦切れてしまうとなかなか戻せないなので、地域コミュニティへの影響も十分検討し、できる限り地域活動が継続できる通学区域の設定や運営方法を考えてもらいたい。
- (27) 学校と地域はお互いに支え合う関係で、学校が再編されても、地域がこどもたちを見守り、育てるという役割は変わらないので、地域の声を丁寧に聴き取り、自治会や各種団体が断絶されないよう、慎重な検討をお願いしたい。
- (28) 学校再編は教育だけの問題ではなく地域活性化にも大きく関わる課題なので、こどもたちのため、そして地域の将来のためにも、教育環境と地域コミュニティの両方を大切にして議論を進めていただきたい。
- (29) 地域コミュニティは防災面で大切である。さらには、文化や地域活動の継承でも大事なので、学校と一体であったからできたこともあると思うと、そうした面への配慮は必要と思う。

全体

- (30) 単学級を良しとしない意味合いの話になっている気がするが、小規模・単学級が悪いとは思っていないし、教育が疎かになっているとは思わない。
- (31) 学校再編を検討するに当たっては、単学級も選択の一つとして置いておく。
- (32) 定住人口でなく交流人口として中学生を増やすため、堺の文化や歴史に触れられる地域留学のできる学校を作ることができればいいのではないかと思う。